



廿日市市教委だより

令和3年
2月15日
第10号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



月日が経つのが大変早く感じられる3学期です。今年度も残すところ1ヶ月余りとなりました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、あらゆる場面で、変更や中止が余儀なくされ、先生方の苦労も多かったと思います。

そんな中で一生懸命取り組んだ今年度の教育活動を、具体的な子どもの姿で振り返り、来年度に向けてよりよい改善を図り、計画していきましょう。



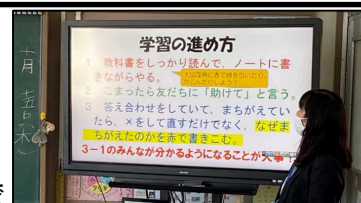
第3回「学びの変革」推進協議会(オンライン研修)

令和3年2月2日(火)に、第3回「学びの変革」推進協議会(オンライン研修)を開催しました。

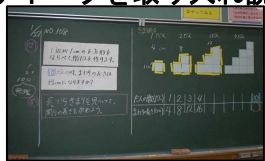
今回の推進協議会では、「個別最適な学びに関する実証研究事業」指定校である宮園小学校の研究主任二野宮教諭に取組経過報告をしていただき、「自立した学び手」を育てるために、まずは「主体的な学びとは何か」「個別最適な学びとは何か」「今なぜ個別最適な学びなのか」について共通理解を図り、教職員の意識を改革することが大切であることや「単元内自由進度学習」の具体的な進め方などについて学びました。

また、昨年度、長期派遣研修で学ばれた宮内小学校の研究主任小坂教諭に第4学年算数科「変わり方」の授業を公開していただき、研究協議を行いました。「1辺の長さが1cmの正方形を並べて、階段の形を作る。10段のとき、周りの長さが何cmになるか。」を求める課題が出され、「表を用いて、表からきまりを見つけて問題を解く。」という授業でした。一人の児童の発言で授業を進めるのではなく、「〇〇の続き、誰か言える？」と児童の発言をつなぎながら進めたり、「今出てきた考えを隣同士で説明し合おう。」とペアトークを取り入れ説明し合わせたりと、児童の言語活動を大切にしながら授業が進められていました。

最後に、広島県教育委員会小池紘太郎指導主事・広島県西部教育事務所田村幸一郎指導主事より指導助言をいただき、「主体的な学び」を促す授業実践を積み上げるために、「個に応じた指導」の充実を図ることや教員の単元を構想する力を高めていく必要性等についてご示唆いただきました。



宮園小学校
単元内自由進度学習



宮内小学校第4学年算数科「変わり方」

プロGRESS研修「生徒指導主事研修(第3回)」の実施

1月27日(水)に、廿日市市プロGRESS研修「生徒指導主事研修(第3回)」を実施しました。今回は、Google Meetを使用した初のオンラインによる開催となりました。市教委としてもまだ手探り状態の中、開催への不安もありましたが、参加された生徒指導主事の先生方もしだいに操作に慣れ、大きな混乱もなく無事に研修を終えることができました。

今回は、不登校(傾向)児童生徒への対応に係る内容を中心とした研修でした。1コマ目は、今年度、不登校等未然防止推進校の指定を受けている大野東小学校の生徒指導主事江盛教諭による「校内適応指導教室の運営や体制づくりについて」の実践報告とグループ協議を行いました。全ての児童が安心して学校で過ごすための、児童の状況に応じた居場所づくりや環境整備の必要性や、生徒指導主事を中心とした組織体制づくりについて大変参考となる内容でした。

2コマ目は、川本SSWによる「スクールソーシャルワーカーの活用について」の講義とグループ協議を行いました。SSWの職務や役割、家庭等への支援を行う際により所としている理論等についての講義により、理解が深まりました。今後、各校においてSSWとの連携・活用を更に進めることで、子どもや家庭への支援の充実につなげていただきたいと思います。

3コマ目は、生徒指導規程の交流を行いました。特に、服装のきまりについては、多くの学校が時代の流れやニーズに応じた見直しを図る必要性を感じていることが分かりました。

全国的に不登校児童生徒数は増加傾向にあり、特に小学校ではここ数年急増しています。そのような状況の中、令和元年度の本市においては小学校が増加しているもののやや鈍化しており、中学校においては減少に転じました。各校において、子ども達に寄り添い心を育てる教育が進められている成果であると考えています。とはいえ、不登校対策は、本市の課題の1つに変わりありません。今後も引き続き、よろしくお願ひします。



スポットライト!

~この人に注目~

★4年間を振り返って

1年目はとにかく先輩の先生方の真似をしました。上手くいかない事も多かったですが、何度も相談し、何度も挑戦しました。2年目は、教師としての考え方がガラッと変わりました。公開研究会では、プログラミングの授業にも挑戦しました。いきいきとした表情の子ども達と一緒に授業を作るという感覚が芽生え、授業の大切さ、楽しさに気付きました。3、4年目は、教材研究、授業改善に力を入れ、一時間の授業にこだわりました。挑戦することは勇気のいることですが、失敗しても必ず自分の成長に繋がると感じています。新しい事に挑戦する力や、毎日楽しみながら、コツコツと教材研究を続けていく力が付きました。



四季が丘小学校
西本真子 教諭
特技：チャリーディング

★喜び、やりがいを感じる瞬間

授業の中で、子ども達が自ら探究・追究しようとする姿や成長を見ると、教材研究の成果と、込めた想いが子ども達に伝わる喜びを感じます。

★四季が丘小学校の強み

- ・「チャレンジ四季っ子」を教員が実践している。
- ・研究や取組を教職員全体で共有できている。
- ・管理職、主任、主事、担任、FU教員、通級担当、支援員等が連携してみんなで子ども達を見ている。

※全ての子ども達の「主体的な学び」や「学力向上」に繋がっている!

★廿日市への思い

管理職、市教委、同僚の先生方、市内の先生方、地域の方々等、多くの方に見守られているという安心感の中で、一杯働くことができた4年間でした。この4年間で学んだ事を大切に、今後の教員生活に生かしていきたいです。



校内適応指導教室の充実 大野東小学校の取組

大野東小学校は、全ての子ども達の居場所作りの一環として、校内適応指導教室の充実に向けた取組を先進的に進めています。このことについては本稿の「プログレス研修「生徒指導主事研修（第3回）」の実施」にも掲載されています。

取り組まれている様々な配慮や工夫の中から、環境整備に注目して紹介します。

教室に入ることが難しい等の事情により、いわゆる別室登校をしながら教室復帰を目指している子ども達のために、安心かつリラックスできる環境を整えることは非常に大切です。

つながれ! 広がれ! 「宝の山」

大野東小学校では、写真のように、利用する子ども達の状況を考慮しつつ、子ども達とともに室内の環境整備に努めています。学校内に自分の居場所があることへの安心感が、登校意欲や教室復帰につながっている子どももおり、取組の効果が表れています。加えて、組織体制作りや指導対応マニュアルの作成、校内での周知等、環境整備以外にも様々な取組の工夫がなされていますので、各学校においても大野東小学校の実践をヒントに、学校の実態に応じて更なる改善に取り組んでいただきたいと思います。



特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

特別支援学級の教育課程

- ①当該学年の各教科等に自立活動を取り入れた教育課程
- ②各教科の目標や内容を下学年の目標や内容に替える場合
- ③特別支援学校（知的障害）の各教科に替える場合

今回は、②の「各教科の目標や内容を下学年の目標や内容に替える場合」についてお伝えします。

慎重な検討が必要!

各教科等の目標及び内容を取り扱わなかったり、替えたりすることについては、**その後の児童生徒の学習の在り方を大きく左右するため、慎重に検討を進めなければならない。**

後の学年又は学部の学習に影響を及ぼすこともあるため、内容を取り扱わないことを適用することは必要最小限にとどめるなど、慎重な対応が求められる。

【特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（平成30年）】

学習が十分定着していないからといった**安易な理由**で下学年の目標・内容に替えることは**適切ではありません**。
その子の将来まで考えて教育課程を組むことが大事!



ICT活用への道

児童生徒用の Chromebook が届き始めました



国のGIGA*スクール構想に伴い、廿日市市でも校内の工事や端末の整備を進めてきました。

令和3年2月第1週の時点で、Chromebook がすべての廿日市市立中学校と一部の廿日市市立小学校へ納品されるとともに、校内のネットワーク工事も終了しています。各校、先生たちがG Suite for Educationについての研修を行い、段階をおって子ども達が、Chromebook を使い始めています。

これまででも、電子黒板やタブレットを活用して、教師が教えるだけの授業から「子どもたちが学び合う」授業へと改善を図ってきました。これからは、一人1台の端末を活かして、子ども達が主体的に学ぶ授業を行っていくべく、様々な活用例を先生方と共有していきたいと思えます。

※GIGA=Global and Innovation Gateway for All（全ての人にグローバルで革新的な入口を）

